

20 主婦の家事労働についての実態調査（第2報）

—仙台市における衣生活を中心とした考察—

宮城学院女子大 横山 シヅ
尚絅女学院短大 阿部 淑子
東北大教育 大泉 ふさ

1 最近の主婦の家事労働の形態が既製品並びにサービス業の利用によって変化しつつある状態について、東京都下において調査し報告したが、今回は仙台市の主婦について調査を行い、地域的な特徴の把握を通して家事労働の変化の方向を見ようとした。

2 昭和33年11月仙台市内の四つの小学校に依頼してその家庭の主婦について調査した。回答数は434枚であった。

3 衣に関する家事労働として洗濯、洗い張、和服の仕立、布とんの仕立、編物について調査の結果東京との大きな相違はみられなかった。仙台は東京と比較すると「和服を着ない」が少く又洗い張、和服の仕立の「家でする」が多いのは古い衣服様式の多く残っているためと思われる。洋服の仕立、布とんの仕立、編物は既製品の利用少く、布とんでは「綿入れただけたのむ」「あつらえる」編物は「あつらえる」が多いのは、加工賃、仕立代の比較的安いため又既製品に対する認識不十分なためと思われる。編物は「家でする」のは手編が多く機械編が少くなっている。以上の家事労働の形態は、主婦の年齢、主婦の学歴、主婦の職業の有無、生活程度、手伝いの有無、世帯主の職業等に左右されている。二つの地域の調査結果は将来家事労働の社会化、共同化により如何に軽減されて行くかの一つの傾向を示すものと思われる。